

平成22年 6月 8日

## 平成21年中における山岳遭難の概況

警察庁生活安全局地域課

## 1 概要

### (1) 全国の発生状況

平成21年中の山岳遭難は

発生件数 1,676件 (前年対比+45件)

遭難者数 2,085人 (前年対比+152人)

うち死者・行方不明者

317人 (前年対比+36人)

であり、発生件数、遭難者数、死者・行方不明者数ともに、昭和36年以降、過去最高を示した。

このうち、40歳以上の者は、

遭難者数 1,602人 (前年対比+35人)

うち死者・行方不明者

284人 (前年対比+28人)

であった。

過去10年間の山岳遭難発生状況を見ると増加傾向にあり、平成12年と比較すると

発生件数 +461件

遭難者数 +591人

となっており、特に、40歳以上の遭難者数は467人増加している。

### (2) 都道府県別山岳遭難発生状況

遭難発生件数を都道府県別に見ると

長野県 173件

北海道 162件

富山県 122件

の順であった。

## 2 山岳遭難の特徴と未然防止対策

### (1) 目的別・態様別

山岳遭難を目的別にみると、登山(ハイキング、スキー登山、沢登り、岩登りを含む)、山菜・茸取りが多く全体の89.9%を占めている。また、態様別にみると、道迷い、滑落、転倒が多く全体の71.5%を占めている。

### (2) 年齢層別

40歳以上の遭難者は1,602人で全遭難者の76.8%を占めているが、中でも55歳以上の遭難者が多く、全遭難者の60.2%を占めている。

### (3) 単独登山者

単独登山者の山岳遭難は、死者・行方不明者ともに増加した。単独遭難者の死者・行方不明者は160人で、全単独遭難者の24.0%を占めているが、複数(2人以上)登山者における死者・行方不明者の割合(11.0%)と比較すると約2倍となっている。

#### (4) 遭難件数に占める通信手段

全遭難件数の61.0%が遭難現場から通信手段（携帯電話、無線（アマチュア無線を含む。））を使用し、救助を要請している。

今後も、携帯電話による救助要請が増加することが予想されるが、携帯電話は通話エリア内での万が一の通話手段としては有効であるが、多くの山岳では通話エリアが限られていることから注意が必要である。

#### (5) 未然防止対策

山岳遭難の多くは、ちょっとした不注意や安易な行動がもとで発生していることから、遭難を未然に防ぐため、登山に当たっては、以下のような点に留意が必要である。

##### 登山計画書の作成、提出

気象条件、装備、食料、体力、体調、登山の経験と山岳の選び方、登山コース、日程等に配慮して、余裕のある、安全な登山計画書を作成し提出する。

また、単独登山はできるだけ避け、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努める。

##### 危険箇所の把握

計画を立てるとき、滑落等の危険箇所を事前によく調べる。

##### 状況の的確な判断

視界不良・体調不良時等には、滑落、道迷い等のおそれがあることから、状況を的確に判断して早めに登山を中止するよう努める。

##### 滑落・転落防止

滑りにくい登山靴等の着用、ストック等の装備を有効に使用するとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心がける。

##### 道迷い防止

地図とコンパスを有効に活用して、常に、自分の位置を確認するよう心掛ける。

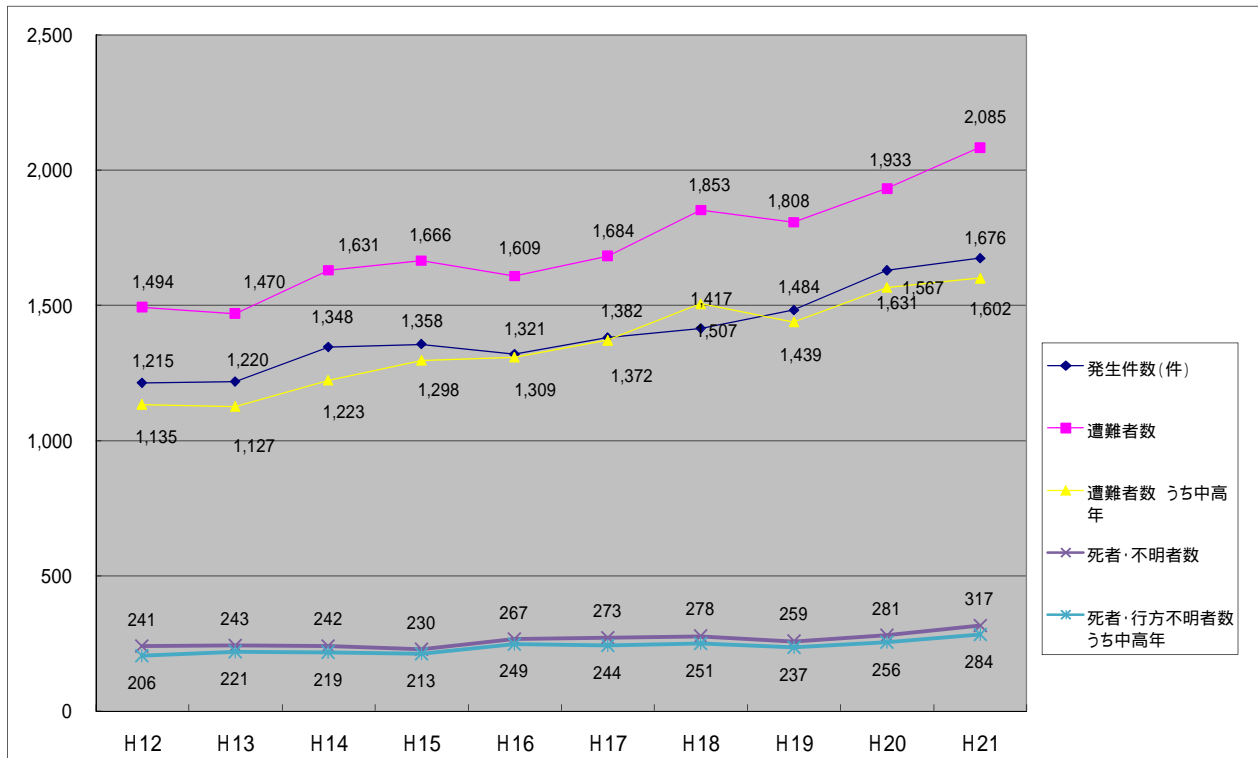
表1 概要

		平成21年		平成20年		増減	
		総数	うち中高年	総数	うち中高年	総数	うち中高年
発生件数(件)		1,676		1,631		+ 45	
遭難者(人)	死者	269	237	253	234	+ 16	+ 3
	死者・不明者	48	47	28	22	+ 20	+ 25
	小計	317	284	281	256	+ 36	+ 28
	負傷者	670	561	698	586	- 28	- 25
	無事救出	1,098	757	954	725	+ 144	+ 32
	合計	2,085	1,602	1,933	1,567	+ 152	+ 35

注: 中高年とは、40歳以上の者を内数で示す。

表2 過去10年間の山岳遭難発生状況

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
発生件数(件)	1,215	1,220	1,348	1,358	1,321	1,382	1,417	1,484	1,631	1,676
遭難者数	1,494	1,470	1,631	1,666	1,609	1,684	1,853	1,808	1,933	2,085
うち中高年	1,135	1,127	1,223	1,298	1,309	1,372	1,507	1,439	1,567	1,602
死者・不明者	241	243	242	230	267	273	278	259	281	317
うち中高年	206	221	219	213	249	244	251	237	256	284



### 表3 都道府県別山岳遭難発生状況

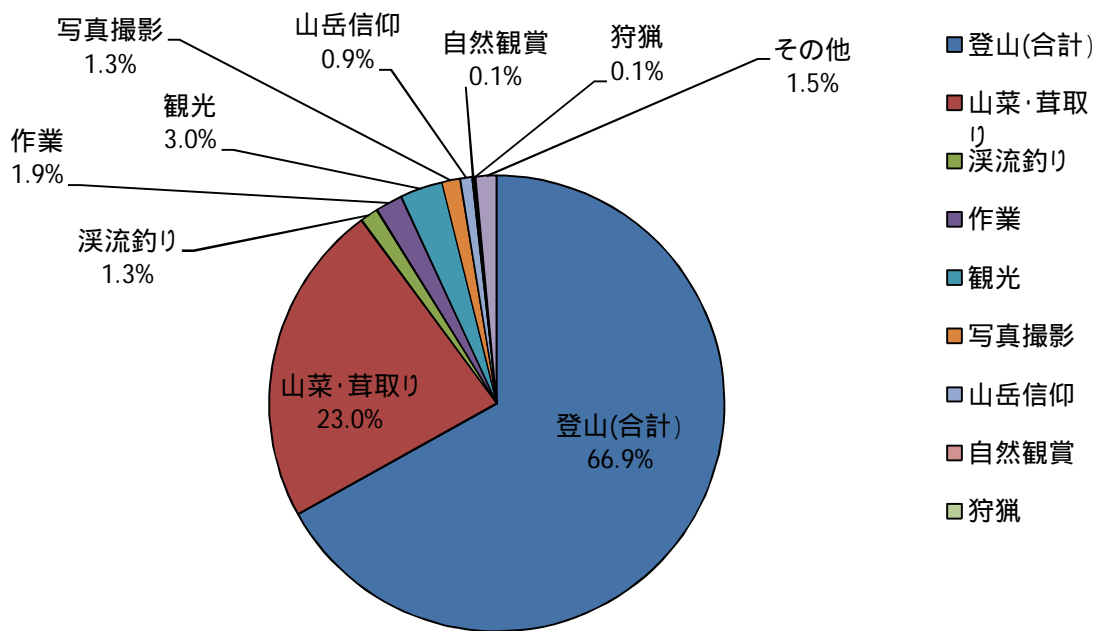
(平成21年中)

都道府県	発生件数	遭難者総数	死者	行方不明	負傷者	無事救出
北海道	162	224	25	6	32	161
青森県	64	80	3	1	9	67
岩手県	62	74	8	4	26	36
宮城県	17	20	5	0	1	14
秋田県	85	97	16	4	28	49
山形県	61	67	13	1	26	27
福島県	65	82	12	0	28	42
警視庁	70	82	6	0	39	37
茨城県	5	6	1	0	0	5
栃木県	31	41	7	0	17	17
群馬県	59	65	11	0	34	20
埼玉県	45	53	2	1	26	24
千葉県	6	8	0	0	2	6
神奈川県	69	86	6	1	31	48
新潟県	84	97	16	3	36	42
山梨県	67	75	15	3	39	18
長野県	173	186	38	6	92	50
静岡県	82	147	12	5	35	95
富山県	122	131	17	2	60	52
石川県	18	22	5	2	4	11
福井県	12	17	2	0	4	11
岐阜県	56	70	10	4	24	32
愛知県	3	3	2	0	0	1
三重県	18	25	5	1	4	15
滋賀県	33	46	6	0	7	33
京都府	10	11	1	0	0	10
大阪府	0	0	0	0	0	0
兵庫県	43	72	8	0	11	53
奈良県	14	16	3	2	1	10
和歌山県	9	18	3	0	3	12
鳥取県	14	19	3	0	5	11
島根県	2	3	0	0	1	2
岡山県	4	4	1	0	2	1
広島県	2	2	0	0	1	1
山口県	0	0	0	0	0	0
徳島県	6	6	0	0	1	5
香川県	1	1	0	0	1	0
愛媛県	15	15	1	0	1	13
高知県	1	1	0	0	0	1
福岡県	11	11	1	0	4	6
佐賀県	3	3	0	0	1	2
長崎県	3	5	0	0	0	5
熊本県	7	13	0	0	7	6
大分県	38	49	4	1	18	26
宮崎県	8	12	1	0	3	8
鹿児島県	16	20	0	1	6	13
沖縄県	0	0	0	0	0	0
合計	1,676	2,085	269	48	670	1,098

表4 目的別山岳遭難者数

	平成21年		平成20年		増減		
	人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率	
登山	登山	1,165	55.9%	1,087	56.2%	+ 78	7.2%
	ハイキング	121	5.8%	101	5.2%	+ 20	19.8%
	スキー登山	56	2.7%	51	2.6%	+ 5	9.8%
	沢登り	33	1.6%	18	0.9%	+ 15	83.3%
	岩登り	20	1.0%	24	1.2%	- 4	-16.7%
	登山(合計)	1,395	66.9%	1,281	66.3%	+ 114	8.9%
山菜・茸取り	479	23.0%	417	21.6%	+ 62	14.9%	
溪流釣り	27	1.3%	28	1.4%	- 1	-3.6%	
作業	40	1.9%	46	2.4%	- 6	-13.0%	
観光	63	3.0%	60	3.1%	+ 3	5.0%	
写真撮影	27	1.3%	14	0.7%	+ 13	92.9%	
山岳信仰	18	0.9%	25	1.3%	- 7	-28.0%	
自然観賞	2	0.1%	5	0.3%	- 3	-60.0%	
狩猟	3	0.1%	5	0.3%	- 2	-40.0%	
その他	31	1.5%	52	2.7%	- 21	-40.4%	
合計(人)	2,085		1,933		+ 152	7.9%	

平成21年 目的別山岳遭難者数の割合



目的別山岳遭難者数の比較(前年対比)

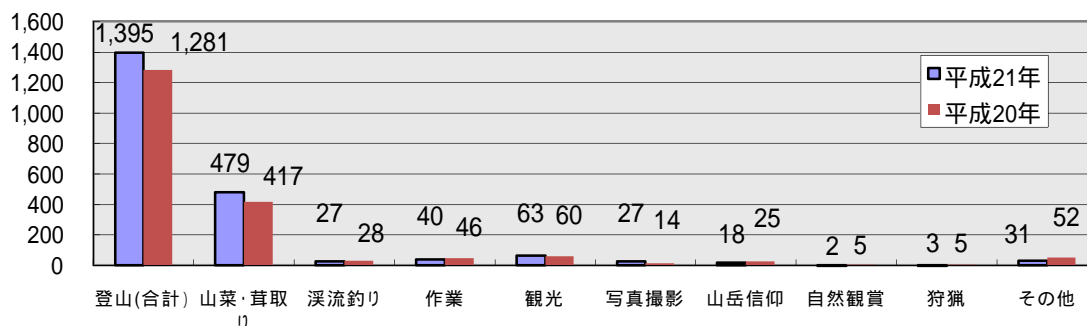
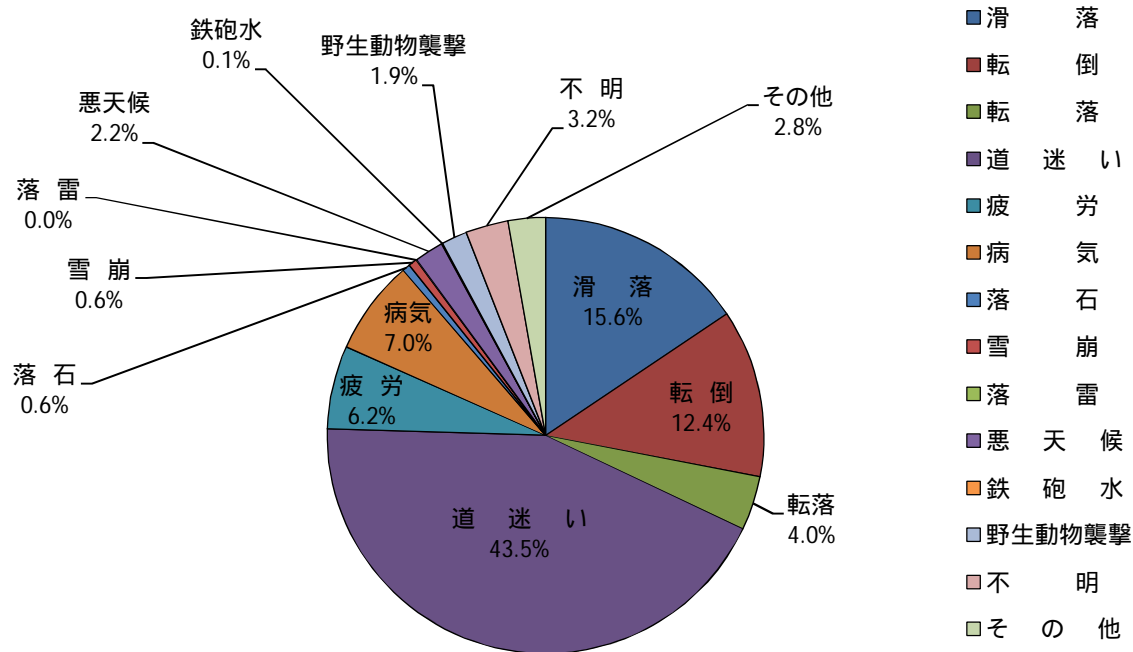


表5 態様別山岳遭難者数

	平成21年		平成20年		増減	
	人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率
滑 落	325	15.6%	350	18.1%	- 25	-7.1%
転 倒	259	12.4%	265	13.7%	- 6	-2.3%
転 落	84	4.0%	102	5.3%	- 18	-17.6%
道 迷 い	906	43.5%	769	39.8%	+ 137	17.8%
疲 労	129	6.2%	89	4.6%	+ 40	44.9%
病 気	146	7.0%	170	8.8%	- 24	-14.1%
落 石	12	0.6%	12	0.6%	± 0	0.0%
雪 崩	13	0.6%	9	0.5%	+ 4	44.4%
落 雷	1	0.0%	10	0.5%	- 9	-90.0%
悪 天 候	45	2.2%	12	0.6%	+ 33	275.0%
有 毒 ガ ス	0	0.0%	0	0.0%	± 0	-
鉄 砲 水	2	0.1%	21	1.1%	- 19	-90.5%
野生動物襲撃	39	1.9%	24	1.2%	+ 15	62.5%
不 明	66	3.2%	43	2.2%	+ 23	53.5%
そ の 他	58	2.8%	57	2.9%	+ 1	1.8%
合 計	2,085		1,933		+ 152	7.9%

平成21年 態様別山岳遭難者数の割合



態様別山岳遭難者数の比較(前年対比)

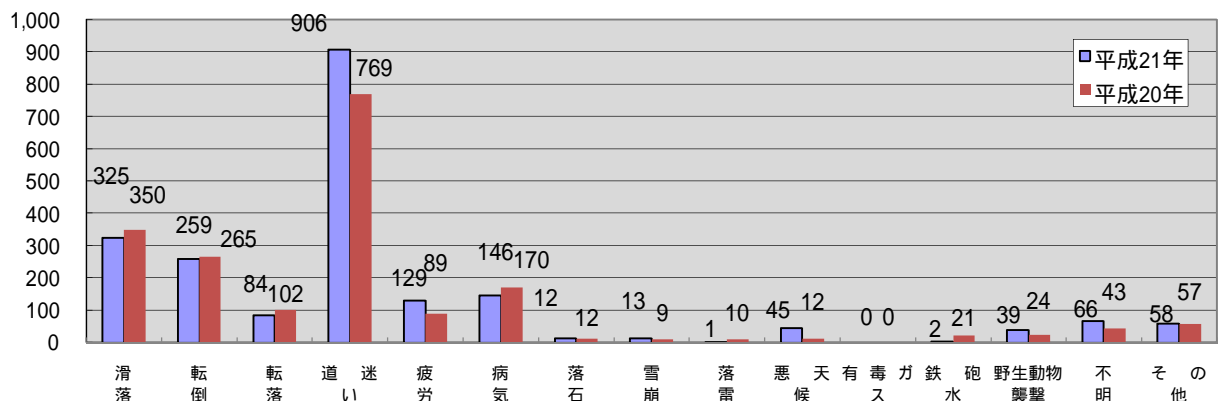
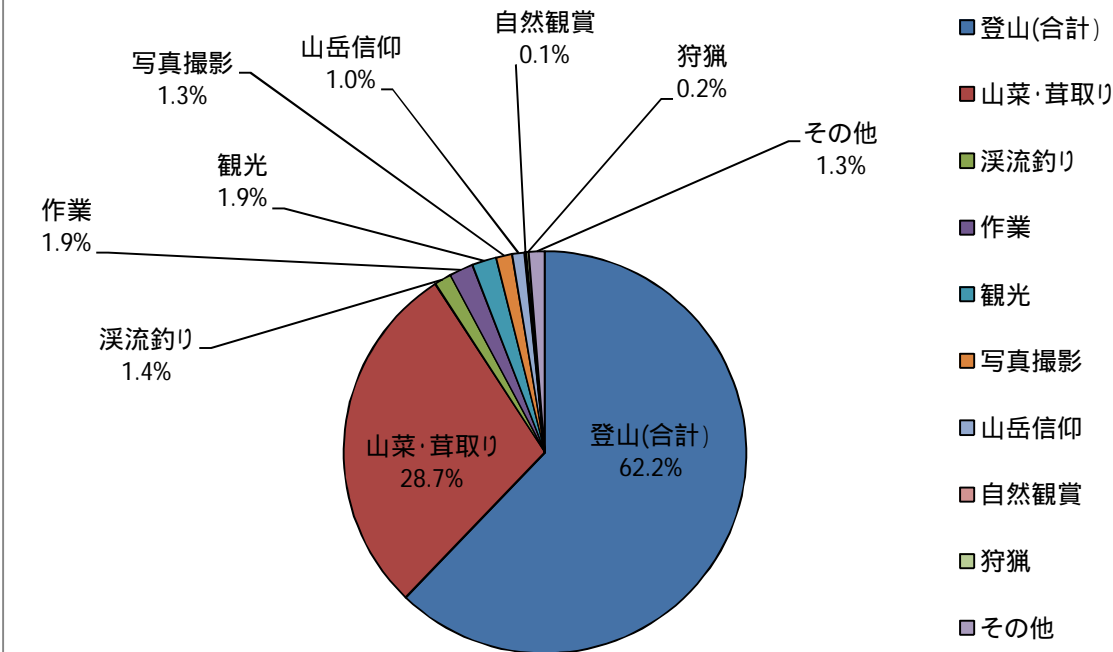


表6 目的別山岳遭難者数(中高年)

	平成21年		平成20年		増減		
	人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率	
登山	登山	838	52.3%	842	53.7%	- 4	-0.5%
	ハイキング	94	5.9%	77	4.9%	+ 17	22.1%
	スキー登山	29	1.8%	32	2.0%	- 3	-9.4%
	沢登り	19	1.2%	15	1.0%	+ 4	26.7%
	岩登り	16	1.0%	18	1.1%	- 2	-11.1%
	登山(合計)	996	62.2%	984	62.8%	+ 12	1.2%
	山菜・茸取り	459	28.7%	405	25.8%	+ 54	13.3%
	溪流釣り	22	1.4%	26	1.7%	- 4	-15.4%
	作業	31	1.9%	36	2.3%	- 5	-13.9%
	観光	31	1.9%	41	2.6%	- 10	-24.4%
	写真撮影	21	1.3%	13	0.8%	+ 8	61.5%
	山岳信仰	16	1.0%	21	1.3%	- 5	-23.8%
	自然観賞	2	0.1%	5	0.3%	- 3	-60.0%
	狩猟	3	0.2%	5	0.3%	- 2	-40.0%
	その他	21	1.3%	31	2.0%	- 10	-32.3%
	合計(人)	1,602		1,567		+ 35	2.2%

注: 中高年とは、40歳以上の者を示す。

平成21年 目的別山岳遭難者数(中高年)の割合



目的別山岳遭難者数(中高年)の比較(前年対比)

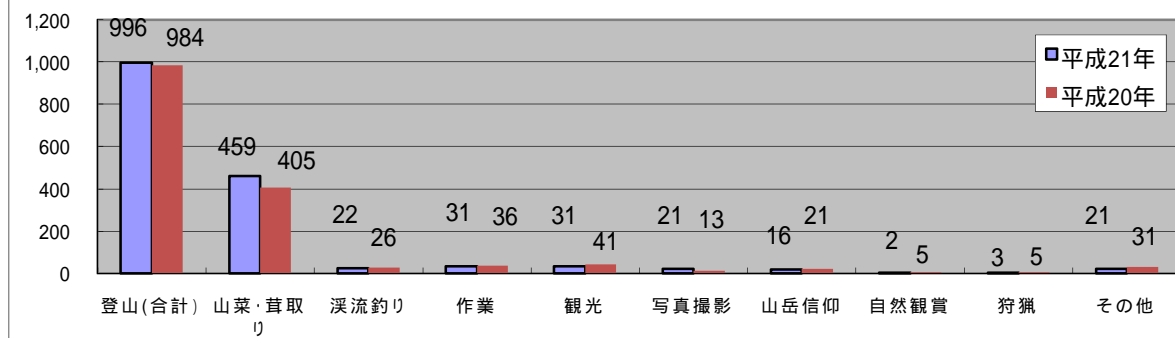




表7 態様別山岳遭難者数(中高年)

	平成21年		平成20年		増減	
	人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率
滑 落	269	16.8%	299	19.1%	- 30	-10.0%
転 倒	224	14.0%	230	14.7%	- 6	-2.6%
転 落	74	4.6%	91	5.8%	- 17	-18.7%
道 迷 い	630	39.3%	580	37.0%	+ 50	8.6%
疲 労	91	5.7%	75	4.8%	+ 16	21.3%
病 気	118	7.4%	139	8.9%	- 21	-15.1%
落 石	7	0.4%	9	0.6%	- 2	-22.2%
雪 崩	7	0.4%	5	0.3%	+ 2	40.0%
落 雷	1	0.1%	10	0.6%	- 9	-90.0%
悪 天 候	37	2.3%	10	0.6%	+ 27	270.0%
有 毒 ガ ス	0	0.0%	0	0.0%	±0	
鉄 砲 水	0	0.0%	20	1.3%	- 20	-100.0%
野生動物襲撃	33	2.1%	19	1.2%	+ 14	73.7%
不 明	64	4.0%	36	2.3%	+ 28	77.8%
そ の 他	47	2.9%	44	2.8%	+ 3	6.8%
合 計	1,602		1,567		+ 35	2.2%

注: 中高年とは、40歳以上の者を示す。

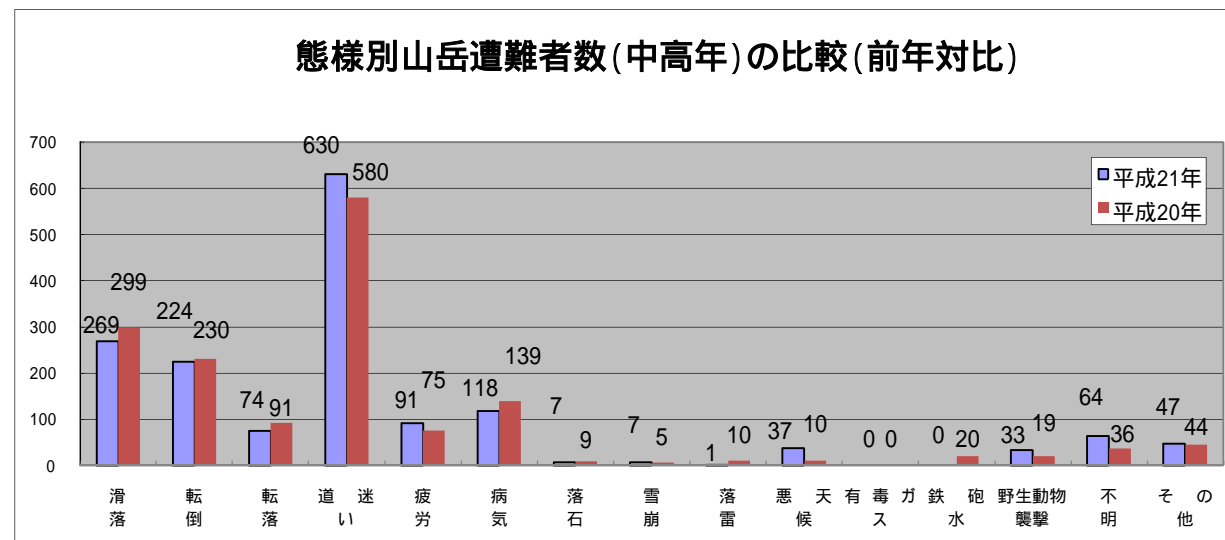
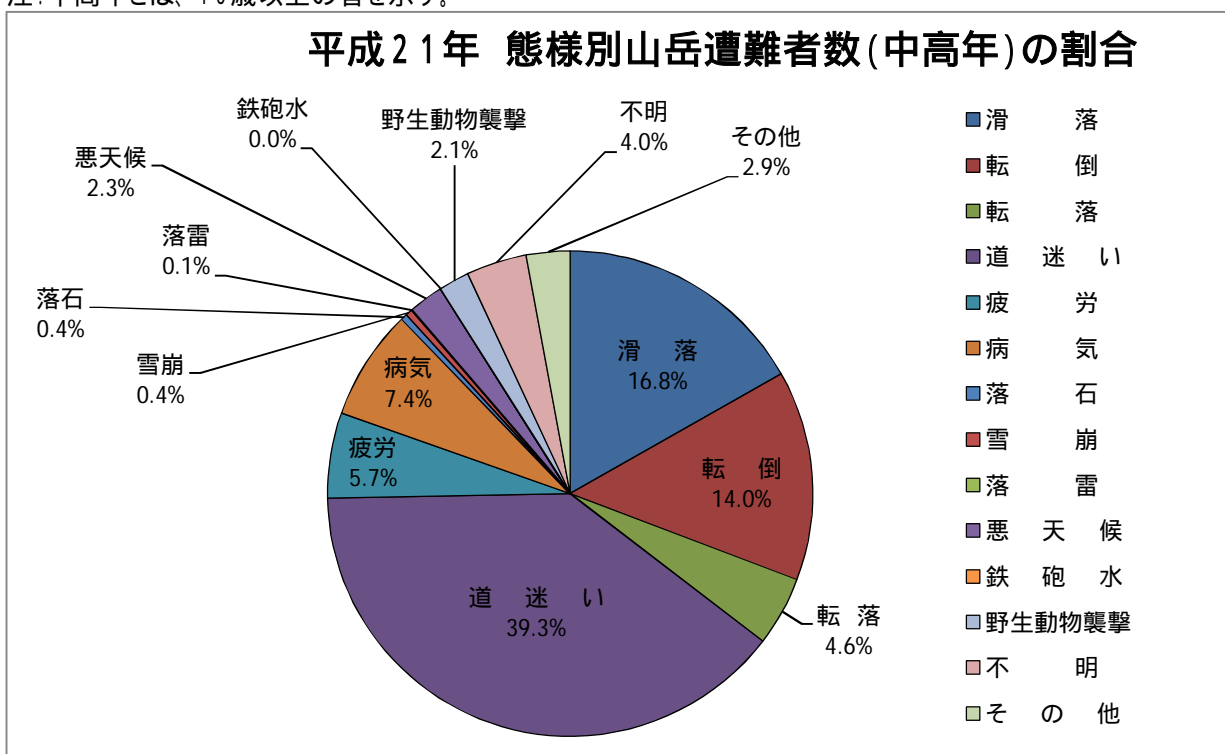


表8 年齢層別山岳遭難者数

	平成21年		平成20年		増減		
	人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率	
15歳未満	96	4.6%	57	2.9%	+39	68.4%	
15～19	53	2.5%	33	1.7%	+20	60.6%	
20～24	57	2.7%	65	3.4%	-8	-12.3%	
25～29	80	3.8%	58	3.0%	+22	37.9%	
30～34	102	4.9%	76	3.9%	+26	34.2%	
35～39	95	4.6%	76	3.9%	+19	25.0%	
中高年	40～44	103	4.9%	87	4.5%	+16	18.4%
	45～49	98	4.7%	106	5.5%	-8	-7.5%
	50～54	145	7.0%	136	7.0%	+9	6.6%
	55～59	216	10.4%	234	12.1%	-18	-7.7%
	60～64	297	14.2%	323	16.7%	-26	-8.0%
	65～69	301	14.4%	253	13.1%	+48	19.0%
	70～74	232	11.1%	198	10.2%	+34	17.2%
	75～79	128	6.1%	142	7.3%	-14	-9.9%
	80～84	56	2.7%	63	3.3%	-7	-11.1%
	85～89	23	1.1%	18	0.9%	+5	27.8%
90歳以上	3	0.1%	7	0.4%	-4	-57.1%	
不明	0	0.0%	1	0.1%	-1	-100.0%	
計(人)	2,085		1,933		+152	7.9%	

注：中高年とは、40歳以上の者を示す。

平成21年 年齢層別山岳遭難者数の割合

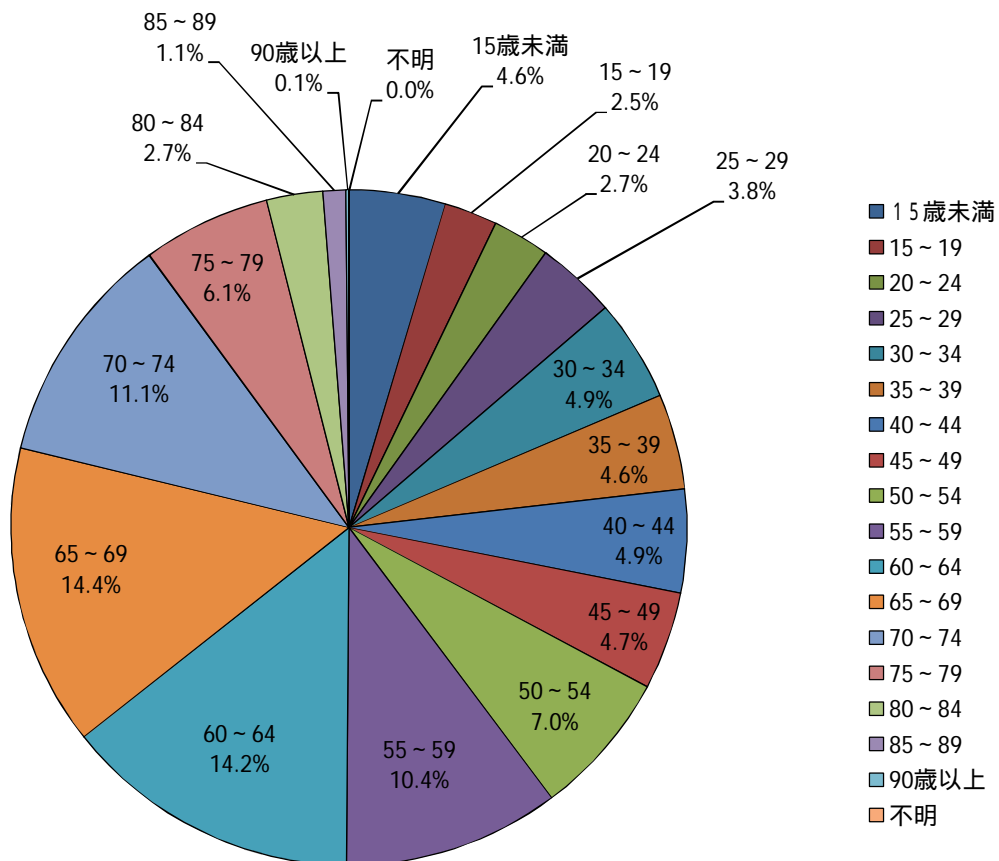
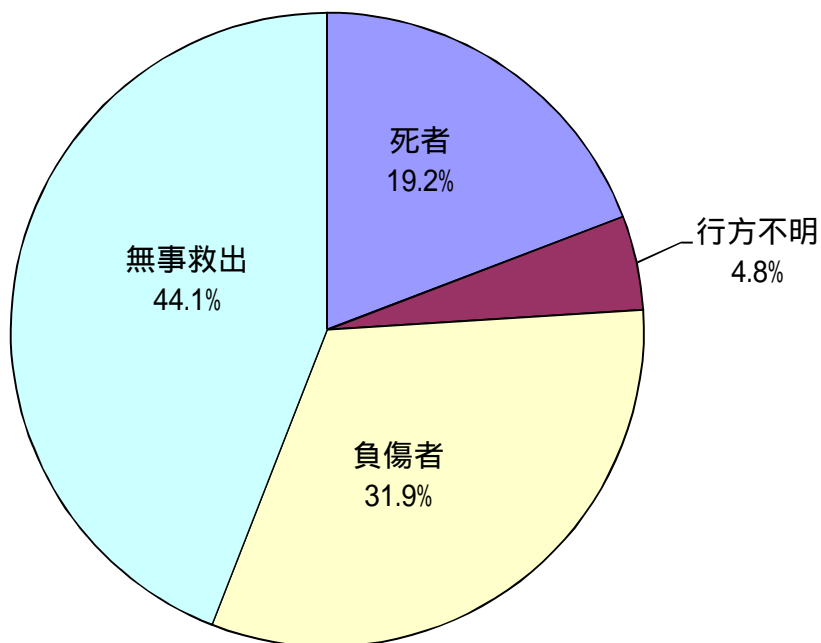


表9 単独登山者の山岳遭難発生状況(人員)

			平成21年		平成20年		増減	
			人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率
遭難者	死者・不明者	死者	128	19.2%	117	19.6%	+ 11	9.4%
		行方不明者	32	4.8%	20	3.3%	+ 12	60.0%
		合計	160	24.0%	137	22.9%	+ 23	16.8%
	負傷者		213	31.9%	195	32.6%	+ 18	9.2%
	無事救出		294	44.1%	266	44.5%	+ 28	10.5%
	合計		667		598		+ 69	11.5%

平成21年 単独登山者の  
遭難発生状況の割合



【参考】  
平成21年 複数登山者の  
遭難発生状況の割合

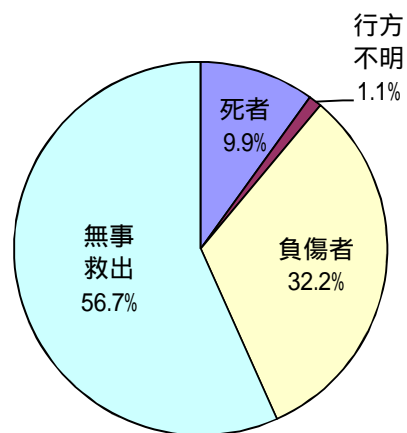
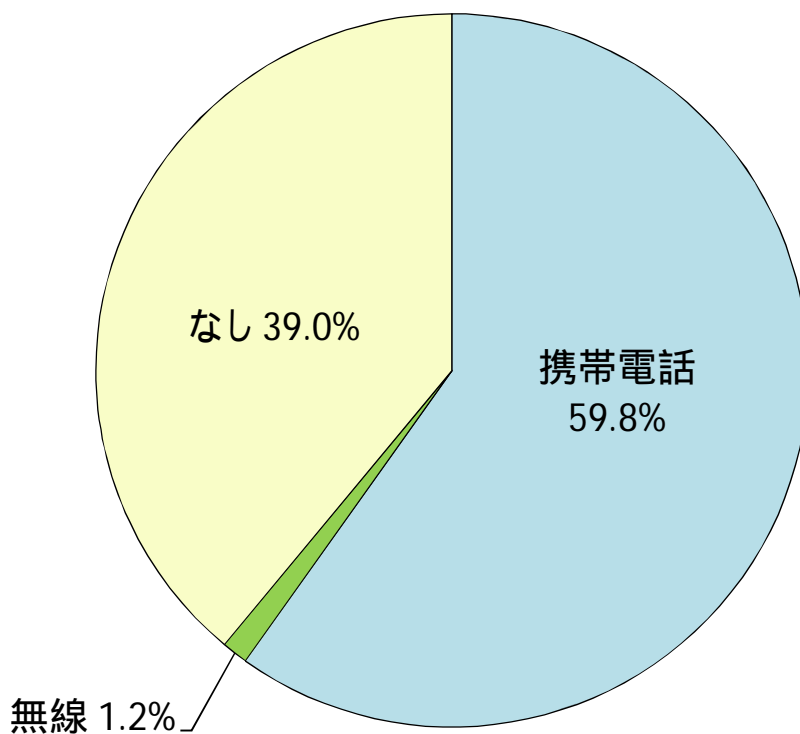


表10 遭難件数に占める通信手段の使用状況

		平成21年		平成20年		増減	
		総数	構成比	総数	構成比	総数	増減率
発生件数(件)		1,676		1,631		+ 45	
使用	携帯電話(件)	1,003	59.8%	733	44.9%	+ 270	36.8%
	無線(件)	20	1.2%	33	2.0%	- 13	-39.4%
	合計(件)	1,023	61.0%	766	47.0%	+ 257	33.6%
未使用(件)		653	39.0%	865	53.0%	- 212	-24.5%

平成21年 通信手段の使用状況



携帯電話・無線機併用は、無線機に計上。